

特 定 非 営 利 活 動 法 人 ト レ ス
(ソ ー シ ャ ル ・ サ ポ ー ト ・ ス ク ー ル)

わだち通信

VOL.48 2018/04

自立援助ホーム「わだちの家」
和歌山市善明寺13

TEL & FAX : 073-419-0888

自立援助ホーム「つぼみの家」
和歌山市狐島615-185

TEL & FAX : 073-496-4364



わだちの家 施設長
川口充紀

陽春の候の候、ます
ます御健勝のことと
お慶び申し上げます。

平素より子ども達へのご理解とご協力を賜り
厚く御礼申し上げます。

さて、この春でわだちの家を開設して10年
になります。はじめは男女ホームでしたが、今
の地に移転してから男子ホームとして運用して
きました。かわって、4年前に女子ホームつぼ
みの家も立ち上げ、男女ともに自立支援の必要
な子どもたちをサポートする活動を続けてきま
した。これまでに巣立っていった子どもたちも、
2ホームあわせて53人になり、成人して立派
に社会で活躍している退居者の様子も聞こえて
きたりします。

そこで、今回、つぼみの家に最初に迎え、(入
居中はいろいろ積もる話もあるのですが、それ
はまた別の機会に:笑)今は、OLさんとして、
自立した生活を送っているA子さんに、本通信
に寄稿してほしいとお願いしました。

本人の意向を尊重して、原文のまま掲載させ
ていただきます。

『社会へ出て気づいた事は、一人暮らしを始
めたらお金が何かしらいるって事かな～。

ほんまに貯金って大事やと思う。

初めは、私も給料の半分貯金(※注)ってキ
ツいなって思ったりしたけど、つぼみ出て思っ
たのは今、貯金できる時にしないと一人暮らし
始めたりしたら、生活費や突然の病気やケガで
病院に行くお金もいるし、なかなか貯金って難
しいって思った。で、練習できる時にできる事
はやった方がいいと思う。

例えば料理とか。毎日コンビニやスーパーで
お惣菜買ったりすると作るよりお金いるし、栄
養も偏ったりするし。

やってくれるからって甘えるのではなく、一
人暮らしできるようになる為には自分は今何を
するべきなのかを考えた方がいいと思う。』

(※注: つぼみの家の入居契約の条件)

つぼみの家

職員 上西佑季

最近では日中暖かい日が多く、和歌山では桜が
満開となっています。桜の咲く季節は出会いと
別れが多い季節でもあり、つぼみの家でも入居
者、職員ともにいくつかのお別れと出会いを経
験しました。

さて、自立援助ホームでは基本的に二十歳に
なれば退居となりますが、二十歳を待たずに自
立に向けて自分なりの生き方を見つけて退居し
ていく人も少なくはありません。また、退居し
ていく時も、バタバタと急遽段取りを組んで退
居する人もいれば、数カ月前からゆっくりとカ
ウントダウンをし準備を済ませていく人もいま
す。そのどちらであっても自立援助ホームに來
た時から、そう遠くない年月で出ていかなくて
はいけないということを意識してか、つぼみの
家を出たらどんなことがしたいだとか、どんな
家に暮らしたいといった話題が出るのがよく
あります。とくにあと数か月で退居を控え準備
に取り掛かっている人にとっては、身近なこと
から現実的に細かな部分を考え話し合うことも
あり、新生活に対しどのようなイメージを抱い
ているのか窺うことができます。初めての一人
暮らし、一から自分で選び築いていく初めての
経験である人がほとんどで、戸惑いながらも自
分自身の居心地のいい空間を考え、時にはその
イメージを話すことで他入居者や職員と共有し
たり、あるいはどうしたらいいか意見を尋ねな
がら楽しそうにしている姿がほほえましく感
じられます。新たな居場所のイメージは本当に
人それぞれではありますが、つぼみの家にいる
間に、少しでも自分の居心地の良いものはどう

いうものかを得られる生活になってもらえるよう支援していきたいと思っています。桜は毎年咲きますが、つぼみの家で生活をし、これから退居してく人、すでに退居したつぼみの家の卒業生たちが次に桜の花を見たときに、以前見たときよりは自身を誇らしくかつあたたかな気持ちで見つめることができるように願わずにはいられません。

わだちの家 職員 菊山麻美

わだちの家の4人のボーイズ&私は全員出身地が違います。言葉、食べ物、習慣 etc いろんなことがちょっとずつ違うんです。人と違うってことでも盛り上がるんですが、自分だけじゃなかったって思えたときの安心感っていうのもいいんです。そういえば、妄想するのが大好きで、なかなか現実世界に戻ってこられず、失敗ばかり繰り返してきた幼い頃の私は、赤毛のアンにどれだけ助けられたか…。

私と彼らの面談も回を重ねて、自分の弱い部分や直したいけれど直せない部分を、わだちでの出来事だけでなく、小さい頃のエピソードを交えて話してくれるようになりました。彼らがそのエピソードをチョイスした時点で、十分に自己分析ができているのですが、本人にその自覚がありません。

しかし、話すことで共感を得て、初めて冷静に自分を見つめることができるのです。「物事は俯瞰してみるのよ。」なんて、ついつい言ってしまうんだけど、かっこよく言えば、彼らは前しか見てないから、気づかないんですよ。曲がり角が来るたびに、先に何があるかわからなくても進むんです。それが若さだから。

でもね、曲がる前に少し考えてみて。誰かに話してみて。大丈夫そのうちできるようになるはずだから。考えすぎたり、悩み過ぎるのも良くないよ。そんなときは良い方に考えて。俯瞰を手に入れた私なんか、曲がり角のある道を選ぼうとしないの。それもやめにしよう。だって春だから。赤毛のアンは言ったから。

「…曲がり角をまがったさきになにがあるのかは、わからないの。でも、きっといちばんよいものにちがいないと思うの。…」

わだちの家の籍数（H30年各月1日現在）

年 齢		15歳	16歳	17歳	18歳	19歳
1月	人数		1	1	1	1
2月	人数			2	1	1
3月	人数			2	1	1

※全員男子です

わが家の子ども達

d男：20歳になったら、家族と暮らしながら自立を目指すことになっています。

e男：仕事は頑張るのですが、経済観念が育っていません。

f男：求職生活が長引いています。この経験を次に活かしてくればよいのですが。

g男：経験から学ぶ力はあるのですが、予測力には、まだまだ課題が…。

つぼみの家の籍数（H30年各月1日現在）

年 齢		15歳	16歳	17歳	18歳	19歳	20歳以上
1月	人数			1		1	
2月	人数			1		1	
3月	人数			1			

※全員女子です

わが家の子ども達

P子：2月に二十歳になり、一人暮らしを始めました。

T子：生活の目標が定まったことで、仕事も日々の暮らしも安定しているようです。

U子：3月に入居しました。定時制高校への編入とバイトの両立が目下の目標です。

V子：同じく3月に入居しました。少し遠くなりましたが、以前からのバイト先に元気に通っています。

1～3月のわだちの家とつぼみの家

(毎月/11 イオン黄色いレシートキャンペーン)

1/13 SST(ソーシャル・スキル・トレーニング)
性教育(男子)講習を実施。

1/20 SST(ソーシャル・スキル・トレーニング)
性教育(女子)講習を実施。

1/30 和歌山県児童養護施設協議会の職員研修会に田中職員が参加。

- 2/01 和歌山県児童福祉施設連絡協議会の職
～02 員研修に川口・田中職員が参加。
- 2/19 少年友の会の視察訪問。
- 2/22 自立援助ホーム近畿東海地区の連絡会
に川口、平山、田中が参加。
- 2/23 和歌山県児童養護施設協議会の常任委
員会に川口が参加。
- 3/11 和歌山子どもの虐待防止協会のシンポ
ジウムに川口、田中が参加。
- 3/26 法人理事会を開催し、来年度の事業計画
について協議。

支援者の皆様方へ

自立援助ホーム「わだちの家」へのご寄附・
ご支援を賜り、また援助基金にご協力をいただ
き誠にありがとうございます。

●1月1日より3月31日までの寄附金

●1月1日より3月31日までの寄附物品 前原壮行様、匿名希望様

●1月1日より3月31日までの援助基金 和歌山南ロータリークラブ様、 川端貞喜様、菱岡工業株式会社様 (いつも有難うございます。)

○援助基金会計報告(1/1～3/31)

収入の部

援助基金 220,000 円

受取利息 0 円

支出の部

自立生活・就労・資格取得支援金
0 円

振替手数料 500 円

3月末残高

1,042,031 円

※原則として、郵便局で受け取る払込金受領票の写
しをもって領収書に代えさせていただきます。特に
領収書の必要のある方、及び「匿名希望」の方は、
その旨を通信欄にその都度お書き込み下さるよう、
宜しくお願い申し上げます。

ご愛読いただいている皆様へ(お知らせ)

多事多端につき、今号より、わだち通信は年2
回(4月・10月)の発行とさせていただきます。
どうか悪しからずご了承ください。

編集後記

中国の古典「淮南子」に「陰徳有る者は
必ず陽報有り」とあります。他人に災難が
及ばぬよう、こっそりと善い行いをした子
どもに母親がいった言葉で、意味としては、
人知れず徳を積む者には、きっとよい報い
があるでしょうということです。

似たようなことわざは西洋にもあり、人
間世界のありようを、私たちに教えてくれ
ます。

逆に「悪因悪果」というのもあり、悪い
ことをすれば、必ず悪い報いを受けるとい
います。私たちが会える子ども達のなか
には、このことがどうも腑に落ちない人も
いるようですが、因果応報は社会生活を送る
うえで基本原則です。自立までに何とか身
につけてほしいと願っています。

さて、これからも、自立援助ホームの様
子はもちろん、県内の子どもたちを取り巻
く状況なども可能な限り、この「わだち通
信」でお知らせして、皆様のご支援ご声援
を賜り、子どもたちの自立への一助となる
よう、なお一層精進いたしたいと思いま
す。今後ともご指導くださいますようお願い申
し上げます。

(援助基金のお願い)

わだちの家・つぼみの家では、皆様方に
ご理解いただき、入居初期の生活が軌道に
のるまでのホーム費や資格取得など子ども
たちの自立支援に役立てるための援助基金
を募っています。ご賛同いただける方は、
以下の口座へのご支援をよろしくお願い申
し上げます。

また、すでにご支援いただきました方々
に、心からの感謝と御礼を申し上げます。

ゆうちょ銀行

口座記号番号 00920-5-299601

口座名義 自立援助ホームわだちの家

かわぐち

特 定 非 営 利 活 動 法 人 ト レ ス
(ソ ー シ ャ ル ・ サ ポ ー ト ・ ス ク ー ル)

わだち通信

VOL.49 2018/10

自立援助ホーム「わだちの家」
和歌山市善明寺13
TEL & FAX : 073-419-0888
自立援助ホーム「つぼみの家」
和歌山市狐島615-185
TEL & FAX : 073-496-4364



わだちの家 施設長
川口充紀

仲秋の候、ますます御
健勝のこととお慶び申
上げます。

平素より子ども達へ
のご理解とご協力を賜
り厚く御礼申し上げます。

さて、早いもので、もう10月です。ハロウ
ィンの季節です。毎年10月31日に行われる
古代ケルト人を起源とするこのお祭りは、秋の
収穫を祝う宗教的な行事でしたが、最近では、
仮装して「トリック オア トリート」と唱え、
盛り上がるイベントとして広く受け入れられて
いるようです。

前号でこの通信に寄稿してくれたOGの子ども
毎年、「トリック アンド トリート」と言いなが
ら遊びに来てくれます。

アメリカから伝わったハロウィンは、戦後の
日本で広まりましたが、もともとキリスト教由
来の祭りではなかったのも、英語圏以外の国で
は関心を持たれていないと聞きます。

そもそも、これほどメジャーになったのは、
1950年代にアメリカの製薬会社やテレビ局等
が「トリック オア トリート」というキャッチ
コピーで普及を図ったからです。日本で、チョコ
レート会社が仕掛けて、バレンタインデーが
広まったのと似ていますね。

もともとの起源が何であろうと、日本では、
すでにハロウィンの市民権を得ていることに違
いありません。私たちは古来から、中国起源の
風習(ひな祭り・端午の節句・重陽の節句など)
やインド起源の宗教(仏教)、ヨーロッパや遠く
は南米の国々の習俗まで、様々なものを受容し、
自分達に合うようにアレンジしてきました。

なんであれ、まずは受け入れてみようとする
柔軟な姿勢が、これまでの日本を形作ってきた

ように思います。

ところが、ネットの普及が契機になったから
でしょうか、極端な言論が幅を利かせたり、あ
ら探しや責任逃れに汲々とする世の中になって
きているようで、社会から包容力が失われてい
くような侘しさを感じています。

大人にとって生き辛い社会は、いっそう子
ども達にとって生き辛いものとなります。昨今の
新聞記事やテレビを見ていると、非難や批判ば
かりで、頑張っている話や上手くできたことを
称揚する話はほとんど見かけません。

この仕事をこれまで曲がりなりにも続けてこ
れたのは、社会に巣立った若者たちの精一杯生
きている姿を、時々垣間見る機会があるからで
す。そんな機会を、もっと多くの人と共有出来
ればいいのですが・・・。

つぼみの家
職員 藤村里恵

みなさん、叶えたい「夢」はありますか。私
にはあります。すぐに叶う小さなものから、少
し勇気を必要とする大きなもの、毎日少しずつ
努力を積み重ね長い時間をかけなければ得難い
ものまで大小さまざまな夢があります。

以前、ここで暮らしている子どもたちと幼少
の頃抱いた夢や現在のお互いの夢について語り
合ったことがあります。現実的に厳しく難しい
状況ですが、語っている時の彼ら彼女らの表情
は輝いていました。

現在「人生 80 年」と言われています。長い
ようでもあり、短いようでもあります。

何事もなく、すんなり叶えられれば、申し分
ありません。

しかし、人生とは乙なもので上手くいかない
ところが醍醐味です。たとえ遠回りしても、何
度躓いたとしても、自分の足でしっかりと立ち、
自分の手で掴み取った夢は、きっと最高の喜び
になります。

「夢とは見ものではなく、叶えるものだ」と言った人がいます。残念ながら叶えられなくても、努力している瞬間は、何物にも代えられない楽しさと幸福感があり充実していると思います。子ども達が自身の心の中で夢を育て、それに1歩でも近付けるように祈り、応援している日々です。

わだちの家
職員 藤田龍士

最近、今までしなかった事にチャレンジするようにしています。毎週友人と卓球をする日を作ったり、ご飯を作って今流行のInstagramに写真をアップしてみたりと色々していますが、その中でも一番のチャレンジが「読書」です。学生時代から「本」はおろか「勉強」もまともにやってこなかった私が今、月4冊の本を読んでいます。

「たったそれだけかよ、、、」と思われる方もいるかと思いますが、私の歴史の中では驚異的な数字で、おそらく20歳になるまでに読んだ本の合計が2〜3冊だったと思います。

なぜこんなに「読書」をするようになったのか？と言いますと、最近仲良くさせてもらっている先輩に、「年収で1,000万円稼いでいる人の月平均読書数って知ってるかい？もちろん漫画は抜きやで。(笑)」と聞かれました。それまでほとんど本を読んでいなかった私は「20〜30冊ぐらいですかね？」とかなりアバウトに答えると、「僕も初めはそれぐらい読んでんのかな？って思ってたんやけども、実は週1冊、月4冊ペースで読んでるんが平均なんやって。それをコツコツやってるか？やってないか？で大きく変わるんよなー。」と教えてもらいました。その瞬間「なるほど！ほんまや！」と思い、その日からどんなことがあっても毎日15分読み始めました。すると15分毎日読むだけで、月2冊半本を読むことが出来ました。今では倍の毎日30分の読書のおかげで、月4冊をキープ出来ています。わだちに来る子どもたちの中には「なかなか仕事も安定せずに、何ごとにも投げやりになっている子」もいます。その子に対して、私自身のこの体験を通して何か伝えられないかな？と思っています。

わだちの家在籍数（H30年各月1日現在）

年 齢		15歳	16歳	17歳	18歳	19歳
4月	人数			2	1	1
5月	人数			2		2
6月	人数			2		2
7月	人数			2		1
8月	人数		1	2		1
9月	人数		1	2		1

※全員男子です

わが家の子ども達

- d男：成人し家族と暮らすことになり、6月に退居しました。
- e男：金銭感覚をいかに育むかが課題です。
- f男：仕切りなおしの意味で生活の拠点を变えることも視野に入れています。
- g男：雇用主の都合で就労先が遠方になり、どう支援していいものか悩んでいます。
- h男：多動で有り余る活力を持て余しています。

つぼみの家在籍数（H30年各月1日現在）

年 齢		15歳	16歳	17歳	18歳	19歳	20歳以上
4月	人数		1	1	1		
5月	人数		1	1		1	
6月	人数		2	1		1	
7月	人数		1				
8月	人数	1	1				
9月	人数		1				

※全員女子です

わが家の子ども達

- T子：自立のために6月に退居しました。
- U子：親と暮らすことになり6月に退居。
- V子：友人とルームシェアしながら自立を目指すことを選び、退居しました。
- W子：親と暮らすことになり退居しました。
- Y子：水害で生活の拠点を失ったことから、新たな生活のため、9月に入居しました。

4〜9月のわだちの家とつぼみの家

(毎月/11 イオン黄色いレシートキャンペーン)

4/23 全国自立援助ホーム協議会の総会・

- ～24 ホーム長研修会に川口・平山が参加。
 5/06 アフターケア事業として退所児童との交流会（バーベキュー）を実施。
 5/27 わだちの家10周年記念式典を開催。
 6/29 SST（ソーシャル・スキル・トレーニング）職員向け性教育を実施。
 7/07 宮城県の自立援助ホームロージーベルの方々が見学に来られる。
 7/26 自立援助ホーム協議会の近畿・東海地区連絡会に川口、田中が出席。
 8/08 SST（ソーシャル・スキル・トレーニング）一泊～09 研修をダイワロイネットホテルで実施
 9/20 自立援助ホーム協議会の近畿ブロックホーム長会に川口、平山が出席。
 9/23 法人理事会を開催し、今後の事業方針について協議した。

支援者の皆様方へ

自立援助ホーム「わだちの家」へのご寄附・ご支援を賜り、また援助基金にご協力をいただき誠にありがとうございます。

- 4月1日より9月30日までの寄附金
- 4月1日より9月30日までの寄附物品
フードバンク和歌山様、前原壮行様
匿名希望様
- 4月1日より9月30日までの援助基金
弁護士 中川利彦様、前原壮行様
匿名希望様

○援助基金会計報告（4/1～9/30）

収入の部

援助基金	40,000 円
受取利息	2 円

支出の部

自立生活・就労・資格取得支援金	0 円
-----------------	-----

振替手数料	210 円
-------	-------

9月末残高

1,081,823 円

※原則として、郵便局で受け取る払込金受領票の写しをもって領収書に代えさせていただきます。特に領収書の必要のある方、及び「匿名希望」の方は、その旨を通信欄にその都度お書き込み下さるよう、宜しくお願い申し上げます。

編集後記

中国の古典「史記」に「狡兎死して走狗烹らる」とあります。兎（うさぎ）を捕まえる猟犬も、兎がいなくなれば用無しになり、煮て食われることから、価値のあるときは重宝がられるが、用が済めば簡単に捨てられることをいいます。

私たちのホームでは、「社会であたり前のこと」をあたり前とするように心がけていますが、その「社会」には理不尽や不合理が多く罷り通っていて、経験の浅い子ども達を送り出すことをためらわせます。

とはいえ、いつまでも庇護するわけにいきませんから、巣立ちの準備が必要です。

願わくば「狡兎三窟」、人が身の安全のために、たくさんの避難場所や策を用意することのたとえ通り、ホームが「安全基地」となるような支援が出来るよう努めたいものです。

さて、これからも、自立援助ホームの様子はもちろん、県内の子どもたちを取り巻く状況なども可能な限り、この「わだち通信」でお知らせして、皆様のご支援ご声援を賜り、子どもたちの自立への一助となるよう、なお一層精進したいと思います。今後ともご指導くださいますようお願い申し上げます。

（援助基金のお願い）

わだちの家・つぼみの家では、皆様方にご理解いただき、入居初期の生活が軌道にのるまでのホーム費や資格取得など子どもたちの自立支援に役立てるための援助基金を募っています。ご賛同いただける方は、以下の口座へのご支援をよろしくお願い申し上げます。

また、すでにご支援いただきました方々に、心からの感謝と御礼を申し上げます。

ゆうちょ銀行

口座記号番号 00920-5-299601

口座名義 自立援助ホームわだちの家

かわぐち